

## Prize エコークラシック授賞式

ドイツのレコード大賞、エコークラシックの授賞式が10月9日、ベルリンのコンツェルトハウスで行われた。この授賞式の模様はドイツテレビZDFで放映されるため、今年は司会を「ドイツ・テレビ界の帝王」トーマス・ゴットシャルクが担い、クラシック音楽ファン以外の視聴者を惹き付けることが期待された。

全22部門からなる賞だが、常連のようになっているアンナ・ネトレブコは、今年も最優秀女性歌手賞を受賞した。毎年、彼女の新境地を披露する場のようになっているが、今年はトゥーランドット（ブッチェニ《トゥーランドット》から。ドラマティックな声の役だとされる）を歌い、聴衆を驚かせた。カラフが持ち役の多い夫君ユシフ・エイヴァゾフとの共演のためであろうが、無難に歌えてはいるものの、それ以外には必然性を感じない選曲であった。

最優秀男性歌手賞にはフィリップ・ジャルスキーが選ばれ、ヘンデル《リナルド》から〈涙の流れるままに〉というポピュラーな曲を、効果的な装飾音を駆使した独自の歌唱で聴かせた。

バイエルン州立歌劇場でのワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》の一連の再演をキャンセルしたヨナス・カウフマンは歌わずに登場した他、アンドレア・ボチェッリがクロスオーバー賞を受賞した。

一番インパクトがあったのは、ピアニストのカティア・ブニアティシヴィリではなかったか。際どいドレスを纏い、しかしそれすら忘れさせる陶酔感で、ムソルグスキー《展覧会の絵》を彼女独自の弾き方で披露したため、終演後レコード業界関係者の間では賛否両論の議論が展開されていた。

(中 東生)



今年も最優秀女性歌手賞を受賞したネトレブコ(中央)と司会のゴットシャルク(右) © Bvml Mavuestenhagen

CONCERT  
10月  
コンサート、イベントから  
EVENT